

# 発展途上国乾燥地における農村飲料水供給実態

コンサルタント海外事業本部 都市社会事業部 開発計画部 森尾康治 他

## ○キーワード

地方給水、乾燥地、水不足、慢性的貧困、参加型アプローチ、基本的な人間のニーズ

## ○概要

飲料水は基本的な人間のニーズであるが、発展途上国乾燥地では、今も多くの人々が水不足に苦しんでいる。ドナーは以前から地方給水援助を続けているが、運営維持管理上の問題を抱え、給水システムの持続性確保に悩むケースが少なくない。これは、途上国の慢性的貧困に原因の一端があると考えられる。また、気候変動や過剰揚水が原因で、新たに水問題に苦しむ地域も増加しかねない状況にある。そこで、アフリカの事例を挙げながら、農村飲料水供給の実態を紹介する。そして、運営維持管理上の課題点を検討し、今後の地方給水案件における留意点を提示する。

## ○技術ポイント

開発途上国乾燥地における地方給水案件では、次のような点に留意する必要がある。

- ① 組織・制度
- ② 地方給水担当行政機関のキャパシティビルディング
- ③ 水質基準
- ④ 貧困問題

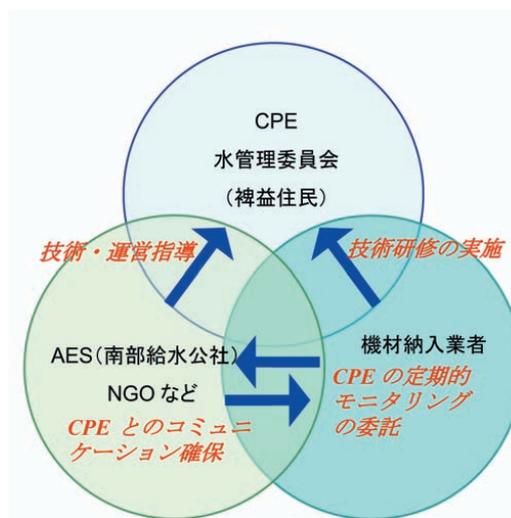
これらを総合的に考慮し、維持管理体制の確立を目指したプロジェクトの枠組み設定に取り組んでいく必要がある。

## ○図・表・写真等



道路の陥没部に溜まった雨水を生活用水として汲み集める住民

マダガスカル南部地域は水にめぐまれず、多数の援助も入っているが、有効な給水システムが見いだせないまま現在に至っている。住民は一般に貧しく、衛生観念も低い。他に選択肢のない場合は、このように道路の水溜まりも飲料水として利用する。



マダガスカル国南部地域地方給水の運営維持管理体制

地方給水では、裨益住民がその運営維持管理の主体に位置づけられることが多い。しかし、都市から遠く離れた辺鄙な村落で、十分な教育も受けず、通信手段も持たない住民が施設の技術的な維持管理を持続的に行うことは当面不可能に近い。まずは、水行政機関が技術・運営の指導を行い、修理や業者とのコミュニケーションを保証する一方、住民は料金徴収を徹底することから始め、段階を踏んで徐々に自立性を高める体制が望ましい。